

下関市総合計画審議会
第4回にぎわい部会
議事要旨

日 時 令和6年7月16日(火)午後2時~3時30分

場 所 商工会館 3階会議室

出席者 乙部委員、松野委員、河村委員、中原委員、田中委員、五十嵐委員、
杉浦委員、原田委員、妹尾委員、富永委員、渡壁委員、中西委員、平岡委員

議題

- 1 第3回専門部会と第3回全体会の振り返り(委員意見への対応と素案修正)
- 2 目標指標(KGI・KPI)の基準値・目標値、主な取組
- 3 基本構想
- 4 今後の予定

1 第3回専門部会と第3回全体会の振り返り（委員意見への対応と素案修正）

資料を用いて事務局より説明。

2 目標指標（KGI・KPI）の基準値・目標値、主な取組

資料を用いて事務局より説明。

（委員）

○KGIの観光消費額にだけ目標値に「約」がついているのはなぜか。

（事務局）

○ご指摘の通り、目標自体が推計値で確定数字ではない、およその数値なので「約」は外す。本来、5年後、10年後の目標値を設定したいが、2年前に作成した観光交流ビジョンで設定した数値が観光客1,000万人、宿泊者数100万人なので、それをベースに同数となっている。

（委員）

○観光交流ビジョンに目標値の記載があり引用するのであれば変えられないと思うが、下関市の観光における課題は、北九州や福岡に宿泊する観光客が多いので、宿泊率を目標にした方が良いのではないか。この指標であれば宿泊率が下がっている。観光客が増えるだけで宿泊や消費単価が増えないと経済的なメリットが出ないで、駐車場の整理や道路の補修等が必要になる一方。その点で、宿泊率を意識してはどうかという意見。

（観光スポーツ文化部）

○次のビジョン作成に取り掛かる段階であるが、現在のビジョンは12年前に設定したスローガンのようなもので、現在の観光客数は500～600万人なので次回も観光客1,000万人、宿泊者数100万人の数字は変わらない可能性が高い。

ご指摘の点では宿泊者数を増やすのは1番の目標になるかもしれない。季節型イベントでは来場者数が発表されるが大きく伸びるものではないので、通年型での観光客数を日帰りでも宿泊でも両方伸ばしていきたい。

（委員）

○KPI「市民1人あたりのスポーツ施設の年間利用回数」がある一方で、美術館や市民会館等の文化施設の利用についての関心度はどうなのか。

（部会長）

文化施設の利用者は把握できないのか。

（観光スポーツ文化部）

○市内の文化施設等については市民実感調査において把握しようという方針はある。施設の利用状況についてはどこまで捉えるかが課題で、公民館等まで含めると広がりが多

いことから、今回の KPI の設定となっている。

文化施設全体の利用の把握は対象施設の設定も踏まえ容易ではない。

(部会長)

○KPI 「挑戦でき活躍しやすい環境が整っていると感じる若者の割合」

現状 11.5%で、5年後 20%、10年後 40%と設定しているが、数値の妥当性がわからない。

(事務局)

○本指標は定性的なものであり、期待値になるのが前提である。その中で 50%程度まで伸ばしたいという考えもあったが、現状で「全く整ってない」、「どちらかというと整ってない」という否定的な人が 43%もあり、その層の人を取り込むのは難しい。そこで、「どちらでも無い」と答えた中間層を含め、40%以上の人に「整っている」、「どちらかというと整っている」に感じて欲しいので設定した。 ※34%以上に修正

(委員)

○KGI 「将来の夢や目標を持っている子どもの割合」

これはどのような聞き方をしているのか。漠然としたものか具体的なものかを知りたい。みんな何らかの夢は持っていると思っている。実際には答えにくいのではないのか。

(教育部)

○全国学力学習調査で質問項目がこのような形になっており、具体性がない聞き方になっている。夢や目標の概念がなければ 100%にしたいが、令和 5 年度で中学生が 65.9%になっているので、中学生が色々将来を考えた結果になっている可能性があり、小学生はその点数値が高くなっている。

(副部会長)

○KGI 「健康寿命の延伸」の数値の説明と伸び率かを教えてほしい。

一般の方には数値が分かりづらいので、表現を検討いただきたい。

(事務局)

○まず、平均寿命以上の延びに健康寿命の延びを伸ばしたい。不健康の定義は要介護 2 以上と定義しており、不健康な期間をできるだけ短くすれば健康寿命が延伸する。

例えば平均寿命が 70 歳から 72 歳に延び、健康寿命が 65 歳から 68 歳に延びた場合に平均寿命は 2 歳しか延びていないが、健康寿命は 3 年延びたことになる。

数値は分かりにくい全国で使用されており、他都市との比較がしやすく以前から使用している。

基準値である男 0.06 歳、女 0.17 歳は分かりにくい参考数値として出しており、市民に示すのは平均寿命より健康寿命を延ばそうという表記しか出さない意向。

(委員)

○素案(4) ①多様な移住者へのアプローチ

「国内外から積極的に移住者を呼び込む施策」と記載があるが、移民をたくさん集めるという風に捉えられる気がする。そのような方向性なのか。共通認識としてニュアンスを確認したい。

(総合政策部)

○ここでの国外は「デジタルノマド」をイメージしている。デジタルノマドとは、デジタル技術を持った人が定住せずにテレワークで仕事をする人のことで国内にもいる。特に韓国にデジタルノマドが多いので、関係人口を増やしながらも移住に繋げたいという意味合いで国外という記載をした。

直接移民を推奨する意図ではないので、「リモートワーカーなど、場所に捉われない働き方をする人を積極的に呼び込む」と表現を改める。

(部会長)

○KGIの将来負担比率は現状41%であるが、現状維持で良いのか。

(事務局)

○将来負担比率が100%であれば、飲まず食わずの状態、すべて借金を1年で返すようなイメージ。本市では最近低い傾向で、令和4年度が41%で令和5年度は多少上がる見込み。今の低い状態で維持したい意向を示している。令和5年度の実績値が出たら見直しが必要かもしれない。

3 基本構想

(部会長)

○キャッチコピーは案どれが良いかを聞けばよいのか。

(事務局)

○構成として、前回のまちづくり基本理念でキャッチコピー、その総合計画に名前を付けて、その説明のリード文を5行程度で説明する。この構成で前回の総合計画は良かったが、ワクワクするとか、10年後どうなってほしいというところを見せられるところが、このまちづくり理念のところではない。ここに10年後の下関はということで、まずは取り組みの姿勢として、人口減少下であっても、にぎわい、活力に満ち溢れる、誰にも優しい持続可能なまちづくりということで、大きく2つの柱を据えてはどうかと考えている。「暮らしやすい住みよい町へ」というのと「若者で賑わう町へ」という2つの取り組み姿勢を今回新たに書きたいということで提案している。そうなった場合、10年後の下関はどうなってる、どういうことを期待するのか2つの柱をもとに、写真とイラストで10年後こんな子育て施設ができているとか、インクルーシブなもので言えば社会福祉センターが新しくできるので、10年後はこうなっているという形のものを8テーマごとに絵で見せる。

○KPI と KGI をある程度達成できた暁には住みやすいと思う市民が 95 パーセント以上になり、まちに愛着を感じる市民も 95 パーセント、住みたいという市民が 90 パーセントという市になってほしい。最終的には社会減 0 を目指したい。

○キャッチコピーは提示している案は踏襲した形なので無視してほしい。覚えてもらうことを考えるともう少しライトなもので良いという意見をデザイナーや専門家から貰った。全国の状況を見るとメルヘン化した短いキャッチコピーは約 3 割。行きたい、住みたい、働きたいだけでいいんじゃないか等、誰でも覚えられるもので良いのではという意見があった。今まで通りか、短く覚えやすいものが良いか踏まえて 8 月 20 日の審議会にて提示するものを作っていきたい。

(委員)

○キャッチコピーは絶対短い方が良い気がする。市民の皆さんが常に心の中に同じ共通の合言葉として持っておくようなもので、ワンセンテンスで覚えられてワクワクドキドキするようなものの方がいい。

基本理念の目標値について 95%とあるが 100%ではいけないのか。キャッチフレーズの現れとしては 100%で良いのでは。

掲載する絵については欧米人の写真ではなく子どもたちが楽しんでいるような絵が良い。

(事務局)

○絵については欧米人ではなく市民をイメージできるものにする。生活に密着したところも市民中心に意識したものにする。キャッチコピーは、ワクワクの部分表現できるのがここだけなので、一方で目標としては、せこいなという印象。目標については社会減 0 のようにインパクトあるものもあるので、現実的な 95 パーセントとかではなくても良いのかもしれないので調整する。

(委員)

○キャッチコピーはシンプルで一言で伝わるのが良い。新しい挑戦というような項目が多いので、歴史よりもチャレンジするようなものが良い。子どもでも覚えられると思う。

(委員)

○若者でも子供でも覚えられる短い方が良い。目標値は挑戦という項目が多く、市長も掲げているのですべて 100%でも良いのでは。

(事務局)

○委員からいただいた意見を踏まえ、専門性のある方に相談の上、8/20 全体会において案を提示する。

(部会長)

○キャッチコピーは表に出ることをかんがえると、糸井重里氏や著名な人をお願いすればよいのではないかと。市内にも隈研吾氏に設計を依頼している建築物もある。

(事務局)

○皆様の意見の傾向を踏まえると、本市に共通するキャッチピーがあるかという点が重要になる。観光行政であれば「そうだ、京都へ行こう」などがある。これは観光客に一番見てもらいたいものであり、総合計画についても一番見てほしいのは誰かという事を考えたい。知見のある方にもご意見をいただく方向。

(副部長)

○ターゲットは若者なので SNS で募集はできないのか。
ぜひ若い人を引き込んでほしい

(事務局)

○公募は今のところ全く考えていない。時間的なもの以外に、若者である 30 代以下に決めてもらう考え方はあるが、ここまで議論したので委員さんの思いや意見を踏まえて考えていきたい。

(委員)

○地域別まちづくりの方向性

基本構想の地図は今後精査されるものなのか、市のどこを示しているのか。地域連携軸は反時計回りなのか。

(事務局)

○地域別まちづくりの方向性については、平成 17 年の合併後の 1 市 4 町のたてつけを記載している。今の都市拠点ゾーンと環境共生ゾーンと交流促進ゾーンというのは踏襲していく。

それを結ぶ地域連携軸という部分が、どうやって物理的に繋ぐのかという交通網と、市民サービス・情報のネットワークを結ぶというところで繋げる。

ただし、時代は変わっているため、10 年間を示すのはなかなか難しいところはあるが、この文章で大きく変わったところが環境共生ゾーンのところで、地域の特色を生かして、本市を代表する多様な魅力や価値観を創造する場としての機能を強化するという点。田園部分と海岸部分は合併の時まで、いわゆる田園都市というのは一次産業の農業とか林業とか水産業という、生産物のことがすごく強調して書かれていたが、今はいろんなところに多様な魅力があることを示している。一次産業という目線ではなく、すべての産業において地域の魅力・強みを生かし、やるべきことの内容を多様化した表現に変えている。山は農業、海は漁業、中心市街地は盛り上がればよい、それを交通と市民サービスでつなげばよいという時代ではないことを表現している。

絵については誤解をまねかないように調整する。

4 今後の予定

以上